

## [概要]

近年,日本では人口減少や少子高齢化によって高齢者の孤独死などの増加が危惧されている.それらの問題は地域のコミュニティーが正常に機能することで防止することができる.

本研究では,富山県小矢部市宮島地区で行われている地蔵祭りを事例に,地域住民に聞き取り調査を行い,少子高齢化の進行する農村地域における地蔵祭りの機能について考察した.その結果,宮島地区の地蔵祭りは「かつて子どもが参加する祭りであったこと」や「農村地域特有の排他性をもつ」ことがわかった.それにより,宮島地区の地蔵祭りは集落の住民と共に経験した記憶を追体験し,共同体としてのつながりを強める機能を持つことが分かった.

本研究の結果から見ると,農村集落のコミュニティーを維持・強化するにあたっては,住民同士の記憶を共有できる場の存在が必要であるといえる.少子高齢化によりそのような場が消滅することでコミュニティーの結びつきが弱くなると考えられる.少子高齢化の進む農村地域では,宮島地区における地蔵祭りのようにコミュニティーの維持機能を持つ場の在り方について問い直す必要がある.

キーワード：少子高齢化社会, 農村地域, 地域行事, 記憶, コミュニティー